

令和7年度 第1回 新井小学校 学校運営協議会 記録

日時： 令和7年4月24日（木）13時30分

場所： 新井小学校 会議室（相談室）

1. あいさつ（市川市立新井小学校校長 清水 晴子）

清水校長よりあいさつ。

2. 委員の任命及び委員の役割について（市川市教育委員会 学校地域連携推進課）

学校運営協議会には、次の4つの役割がある。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。（必須）
- ② 学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができること。（任意）
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べることができること。（任意）
- ④ 学校関係者評価を行う。（必須）

学校運営協議会は「学校の良きパートナー」であり、目指す子供の姿を学校と共有し、何かできることがないかアイデアを出し、手立てが適切であったか評価をする。

3. 自己紹介

各委員より自己紹介。

4. 協議

会長選出 → 元市川市立南行徳中学校校長 神林裕子さんに決定

副会長 → 新井小学校 PTA会長 佐藤健児さんに決定

（1）令和7年度学校運営について（市川市立新井小学校校長 清水 晴子）

昨年度のうちに承認を得ているため、令和7年度市川市立新井小学校グランドデザインの要点を絞って伝える。

「チーム新井」という言葉は、教職員だけに使う言葉ではない。地域の方々も同じ方向を向いて、共に取り組んでいきたい。「真善美」は新井小の校歌にも登場し、長く受け継がれてきた。今年度もこの精神を引き継いでいきたい。

始業式の際、子供たちに向けて「自分もよくてみんなもいい」という話をした。学校生活を通じて、人との関わり方を身に付けることが大切。自分を犠牲にしてはいけない。自分にとっても、相手にとってもいいことかどうか、それを考える力を身に付ける場が学校である。

目指す児童像について。真（確かな学力）の領域では、「基礎的基本的な学習内容の定着とめあてや振り返りを重視し、子供が何を学んだかわかるようにする」が赤字として強調されている。朝読書の継続、PUT（パワーアップタイム）の活用によって国語力、とりわけ読む力を高めていく。

善（豊かな心）の領域では、自己有用感・自己肯定感を持つことができる環境づくり、いじめのない学

校、挨拶を進んで行う環境づくりに努める。

美（健やかな体）の領域では、体を動かす時間の確保、積極的な食育、家庭との連携を基にした規則正しい生活習慣の確立を目指す。

めざす学校像。子供たちが安全で安心して学べる学校、地域と共に歩み、地域を大切にする学校、子供たち・保護者・教職員・地域の方々が誇れる学校。

（委員より質問）

Q. 「学力向上推進校」の指定を受けているとあるが、これはどういったものか？

A.（清水校長）市川市より指定を受けるもの。本校は今年度で5年目になる。2年に1回、公開授業を行う仕組みになっている。

Q. 校舎内トイレの手洗い場を直してほしい。校庭が狭いから広くしてほしい。体育館にエアコンを設置してほしい。委員会の方にお願いしたい。

A.（学校地域連携推進課）学校の設備については、教育施設課が修繕を行う。頂いたご意見をお伝えする。現状、校庭の拡張計画はないものの、他校でも同様の意見が出ている。こちらも教育施設課にお伝えする。

A.（稗田教頭）体育館のエアコンについては、今年度設置される。工期としては6月中旬～9月を予定している。

令和7年度学校運営についての基本方針、賛成多数により、承認。

5. 報告及び意見交換（稗田教頭）

（1）教職員の紹介

令和7年度職員構成を説明。

（2）今年度の教育課程について

昨年度からの変更はない。本校の特徴は「スーパーウェンズデイ」と呼んでいる水曜の特別日課。13:30の下校となるためか、水曜日の欠席は少ない傾向がある。今年度で3年目の取り組みになる。

（3）運動会について

5月24日（土）開催。全校一斉の午前中開催は昨年度と同様だが、今年度は給食の提供はなく、12:30の下校となる。児童が使う椅子については、1年生は学校で購入した折りたたみ椅子を使用、2～5年生は教室で使っている自分の椅子を使用、6年生はパイプ椅子を使用する。

雨天時は、28日（水）に延期し、24日はスーパーウェンズデイ時程の授業を実施。28日も実施できない場合は平日順延となる。

地域からの連絡（島尻自治会相談役 山本 稔さん）

9/13（土）新井小の校庭を借りて自治会主催の盆踊りを実施したいと考えている。音響設備も借りられないか。→エアコン設置工事中のため、体育館から電源は取れない。新校舎から引っ張る。トイレも新校舎のものを使用する予定。

地域学校協働活動推進員からの連絡（地域学校協働活動推進員 新居 三寿子）

今年度も、学校の応援団として地域サポートの輪を広げていきたい。図工や家庭科など、人手が必要な学習のサポートもしていきたい。年間もしくは半年のお手伝い予定を出せるように考えている。LINEオープンチャットも活用している。また、「なんぎょうFAM（ふあむ）」としてブロック内の地域学校協働活動推進員が中心となり、子供たちの学習支援や地域活動も行っている。

6. その他

委員関係書類について、学校地域連携推進課より説明。